

## ●矢島甲子太郎が見た馬込の風景

矢島甲子太郎は、明治 24(1891)年、長野県の中箕輪村(現長野県上伊那郡箕輪町)生まれの彫金家です。大正 11(1922)年 10 月、彼は入新井町新井宿源蔵原(現大田区山王一丁目付近)に小さなアトリエを構えたことを契機として大田区域内に転入してきます。大正 13 年 9 月に馬込村に転居して以降、複数回転居を繰り返しながらも、終戦の直前まで彼は家族とともにこの地に居住し続けました。この間、近隣風景を油絵やスケッチとして多数描いてきます。これらの作品は、都市化の中で喪失し、今は見ることのできなくなった馬込の原風景を追体験させるものとして貴重です。

大田区域への転入の経緯は不明なものの、矢島は彫金家として日本美術協会に所属していましたから、やはりそのあたりの友人の引きがあつての山王・馬込への移住だったのかもしれませんが。写生帖『馬込風景写生』のなかには、矢島と同じく馬込に住んでいた洋画家・漫画家の服部亮英が矢島家の庭を描く姿がスケッチされており、両者の間には親交があつたことがうかがえます。



「馬込風景」大正 12 年  
緑豊かな農村風景が描かれています。



写生帖『馬込風景写生』



「我が家の花園を画く服部亮英氏」

昭和 5 年 10 月 28 日

服部亮英は大正時代に大田区へ転入し、亡くなるまで馬込で過ごしました。服部との交流は矢島が終戦直前に京都府亀岡市郊外に縁故疎開して以降も続いています。



「塚越」昭和 5 年 3 月 27 日

現大田区南馬込六丁目、西馬込二丁目周辺を描いたスケッチです。牛が農道を歩くのどかな田園風景が広がっていました。



「中井青山熊治氏下にて」

洋画家の青山熊治は大正 12 年に上京し、大森の子母澤に転入、その翌年には馬込にアトリエを借ります。昭和 5 年には馬込 1632 (現大田区南馬込四丁目 12 周辺) に移転。描かれた年代は不明ですが、前後のスケッチの記録から昭和 5~6 年頃のものとして推測でき、青山が転居した頃と合致します。道路は舗装されておらず、木々が生き茂る自然豊かな馬込風景がうかがい知れます。



「京濱荷物線路上より佐野伯爵邸を望む」

昭和 5 年 10 月 22 日

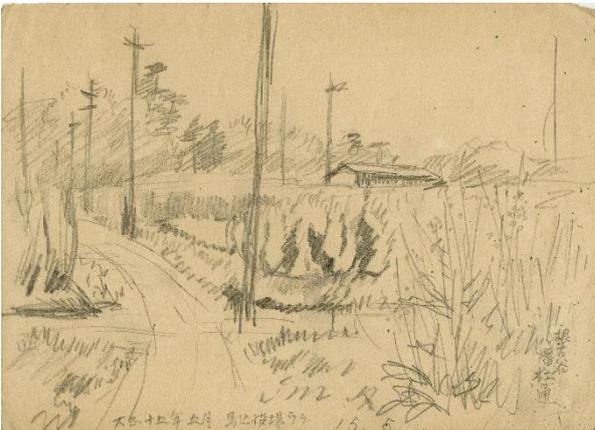
日本赤十字社を創立した佐野常民伯爵の別邸が北馬込二丁目 (馬込第三小学校の周辺) に所在しました。佐野は明治 35 年に亡くなりますが、死後も邸宅は残され、昭和 20 年 4 月の空襲で焼失したと伝わります。本図は、品鶴線 (現東海道本線) から北側 (佐野伯爵邸方面) に向かって描かれています。



「馬込緑ヶ丘」

昭和 6 年 1 月 13 日

通称「緑ヶ丘」と呼ばれた場所は馬込村霜田のことで、現在の大田区東馬込一・二丁目付近にあたります。かつては詩人・童謡作家の北原白秋もこの地に居住し、「緑ヶ丘風景」(『きよろろ鶯』書物展望社、1935 年) としてその風景を表現しました。



「根古谷八幡社通 馬込役場ウラ」

大正 15 年 5 月

馬込八幡神社に続く通りを描いています。「根古谷」とは、現在の大田区南馬込五丁目周辺の旧字名です。